

北上市立 **鬼の館** だより 2016. 3 第44号



「鬼」

鬼や民話をいきいきと

利根山光人は、岩手の民俗芸能に深い関心を寄せ展勝地にアトリエを構えて創作活動を行った画家です。メキシコにも造詣が深く、現地で収集した仮面63点が鬼の館に寄贈されています。鬼の館では今春、常設展示室の一部展示替えを行い、画伯が収集したメキシコの仮面を公開します。

また、4月23日からは画伯の作品から鬼と民話がモチーフになったものを御紹介する特別展「利根山光人、鬼と民話を描く」を開催します。主人公が今にも額から飛び出しそうなほど躍動的に描かれ、エネルギーに満ち溢れた作品ですので、この機会にぜひ御覧ください。なお、この特別展は、北上市立利根山光人記念美術館が開館20年を迎えることを記念し、当館と関連の深い所蔵作品を公開するものです。



「鶴女房」

鬼の館平成27年度下半期をふりかえって

企画展「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と」

企画展「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と～岩手の昔話から」は7月25日から11月3日まで開催しました。

本展では、北上を中心に県内で伝承される昔話の中から特に鬼・大蛇・狐・蜘蛛を取り上げ、声によって伝えられていた昔話の世界の一部をご紹介します。方言を使った擬態語は印象深く、懐かしく感じる人や初めての言葉を新鮮に感じる人などそれぞれ。また、当館所蔵の狐の張り子面や市内の神社に納められている騎狐神像なども展示し、多くのお客様にご覧いただきました。



様々な狐の張り子面

鬼っこわんぱく講座「鬼剣舞体験」

毎年開講している鬼っこわんぱく講座“鬼剣舞体験”。今年は市内外の5歳児から小学4年生の16名が参加。福豆鬼節分会で、講座で作成したお面を身に着け、練習を重ねた「刀剣舞の狂い」を凛々しく立派に発表しました。閉講式では、黒沢尻西小3年千田幹斗君が「5回の練習会で岩崎鬼剣舞の皆さんに楽しく優しく教えていただきました。お面も自分で作りました。これからも北上の伝統芸能の鬼剣舞を学び、日本中、世界中に広めたいと思います」と、謝辞を述べました。



自作のお面と衣装を身にまとい、いざ「決まった!!」

新春大乘神楽公演

新春大乘神楽公演は1月10日、鬼の館エントランスホールにて行われました。北上市文化財活性化実行委員会の主催で、市内の5保存会の出演により11演目が披露されました。手次や踏み足・九字など修験道色の濃い大乘神楽ですが、今回は初披露となる狂言「三人婿」が行われ、侍の旦那、旦那に仕える冠者と娘婿による三人の掛け合いが漫談的な演目で会場を沸かせていました。

新春公演らしく餅まきも行われ、最後まで多くのお客様で賑わいました。



宿大乘神楽「三人婿」

冬休みワークショップ

冬休みワークショップは市内小学生を対象に12月23日・26日・1月6日の三日間行い、それぞれ「鬼剣舞張り子面」「鬼の館版画カレンダー」「鬼たこ」を作りました。1月6日に行った「鬼たこ」作りでは「平戸の鬼洋蝶」など館内に展示している凧を見学し、イメージをふくらませてから作業に入りました。障子紙にオリジナルの鬼を描いて完成させた「鬼たこ」はどれも個性的。当日は天候が悪く実際に揚げてみる事が出来ませんでしたが、カッコイイ出来にみんな満足していました。



カッコイイ「鬼たこ」出来たよ

福豆鬼節分会

鬼の館と地域が協働で行う年中行事、福豆鬼節分会は1月31日、当館で行いました。当日は風があり肌寒い一日でしたが、館は約3,000人の来場者で大賑わい。ステージでは、青年部による習俗儀礼の木ボラの邪気祓いや豊作祈願の庭田植え儀礼が行なわれた後、地元の田植踊りや百姓踊り、わんぱく講座“鬼剣舞体験”の発表や、北上の郷土芸能“鬼剣舞”も披露され来場者を魅了しました。また、地元のお母さん方手作りの餅がふるまわれた他、参加者が20メートルを超える恵方巻きに挑戦。出来上

がった恵方巻きは、来場者に配られ「南南東」の方角を向いてガブリ。途中、おに丸くんも現れ子ども達は大喜び。最後は約1,300個の餅まきに、たくさんの笑顔と歓声があがりました。来場者の皆さんは、この節分会で邪気を祓い今年一年の“幸福祈願”が出来たのではないのでしょうか。



北上市の観光キャラクター「おに丸くん」



福豆たくさんひろってね～！！



恵方巻き上手に巻けるかな？！

市民開放展

市民開放展は11月21日から3月13日まで鬼の館企画展示室で開催しました。

市民開放展第1期は、「谷内博司版画展」。子どもの頃から神楽の音色を聴きながら育ったという谷内さんの作品には、早池峰神楽や鬼剣舞など、民俗芸能の様子が数多く描かれています。「(作品に触れる人が) 民俗芸能を好きになってくれるように」との願いが込められた版画はとても生き生きとしており、まるで実際に公演を観ているかのような臨場感あふれる展示となりました。

市民開放展第2期は、市内で書道教室を営む高橋栄杏(栄美子)さんと教室に通う松田志保さんによる「書の世界展」を開催。「書」と聞いて半紙に書かれた綺麗な文字を想像しますが、栄杏さんの書は前衛書と言って「筆と墨で絵のような空想の世界を表現する書道」です。綺麗さや正確さだけに囚われることなく自由に描かれたお二人の書からは、文字を書くことの楽しさを感じることができ、その親しみやすさや絵のような「書」に連日多くの観客が訪れました。



谷内博司版画展



書の世界展

学芸ルームから

鬼学講座を振り返って

主任学芸員 後藤 美穂

今年度の鬼学講座は、専門家による鬼に関する講演というこれまでのスタイルを変え、地域に伝承される民俗芸能に携わる方々からお話を伺う講座「民俗芸能の今、そしてこれから」を開催しました。鬼の館では来館者サービスと発表機会の両面から民俗芸能の定期公演を行ってきました。毎回好評を博していますが、伝承活動の実態や課題、携わる方々の思いを伺い現状を考えるのがねらいです。

第1回は「子どもと芸能～二子地区の事例」と題して二子地区交流センター長及川正男さんに伺いました。自らも神楽や鬼剣舞に携わってきた経験から、民俗芸能は地域の信仰や生活と密接に関連したそこできできない芸能だと定義します。センター長として外から来た人、故郷をあとにする人の目線も重要視し、地区の芸能やお祭りを周知するパンフレットの作成に力を注いできました。時間はかかっても“同じ気持ちで同じ方向を見て同じ踊りをする集団”を育成していきたいとの思いを語っていただきました。

第2回は「鬼剣舞と国際交流」と題し、岩崎鬼剣舞師匠の八重樫正義さんに伺いました。同保存会は、岩手から南米パラグアイ国に移住した人々が現地で伝承してきた鬼剣舞に対し、20年以上前から指導を続けてきました。八重樫さんはその中心的な役割を担い5回の渡航経験があります。遠い異国の地でも伸びきったカセットテープで鬼剣舞が踊られていることに感銘を受けたそうです。移住から数十年が経過し、二世、三世の方々は、故郷はパラグアイという感覚の一方で移民という意識もあり、師匠不在の下踊ることに「これでいいのか」という不安を抱えたまま踊っているという印象を受けた八重樫さん。本家である岩崎鬼剣舞から指導者が出向き、これでいいのだと安心させてあげることが大事だと振り返ります。

第3回は「県指定無形民俗文化財ひな子剣舞の保存育成」と題し、北上市和賀町で伝承される煤孫ひな子剣舞保存会から武田正雄会長と道地ひな子剣舞保存会の田鎖久一会長から伺いました。少年少女が踊るとい特徴から踊る年代が特定され次々と人が入れ替わる難しさを抱えています。会報をこまめに作成し父兄に細かな情報が行き届くよう工夫したり、踊り手が少ないときには経験者である大人が代わって踊るなど、工夫を重ね途切れないう承してきたそうです。もともと、契約会という地縁組織が母体となって伝承してきましたが、学校教育に取り入れられたことで多くの後継者ができた事例もありました。

第4回は「神楽を語る～信仰と芸能・保存継承」と題し、齋藤克郎さん（北上市大乘神楽保存会連絡協議会長）、鈴木俊逸さん（和賀大乘神楽保存会代表）、及

川和生さん（宿大乘神楽庭元）、八重樫幸さん（宿大乘神楽保存会会長）に伺いました。どちらの保存会でも神楽のしきたりを守りながら、後継者の育成や地域への普及などに心を砕いておられます。農村の少子高齢化など伝承基盤に大きな変化が起きている中、それでも維持できているのは信仰が支えになっていると言えます。一度でも伝承を休んでしまえば復活には大きなエネルギーが必要です。人がつなぐしかないという使命感が大乘神楽の皆さんの大きな原動力のようです。また、地域の皆さんからは「今日の神楽はありがたみがあった」あるいは「なかった」といった感想もあるそうで、掛けられる言葉も大きな支えになっているようです。



第4回鬼学講座の風景

最終回となる第5回は、「民俗芸能のこれから」と題し北上市民俗芸能団体連合会長の和田國男さんと市教育委員会文化財課長の高橋文明さんに伺いました。連合会に加盟する保存会数が減少傾向にあり、特に発表の機会が少ない団体が顕著とのこと。観光イベントでは公演時間が15分や30分と制約されることも多く、踊りが省略されたりダイジェストにならざるを得ない懸念について問題提起しました。これについては、通りがかった観光客が引きつけられるのに必要な時間は15分程度。そこは入口（きっかけ）として捉え、祈りや願いに裏打ちされた本物の芸能の感動に触れてもらう機会はまた別と考えてもよいのではないかと提案もありました。北上には北上翔南高校鬼剣舞部のように、100人近くの部員が民俗芸能に青春を傾ける事例もあり、多くの若者が芸能に魅力を感じ関心を持っている実態もあるのは明るい話題の一つであり励みでもあると締めくくられました。

さて、全5回を終えて痛感するのは、民俗芸能を地域の宝として維持するのは携わる人の力だけでは難しいということです。芸能に思いを寄せ、踊りを心待ちにする地域の応援団が励ましの声を上げることも伝承活動継続には大切な要素です。

今回の鬼学講座では、発表機会を維持することの大切さ、情報発信する大切さも痛感しました。新年度にはいわて国体で来県される皆さんへ向けた特別公演も企画しています。北上の民俗芸能の魅力を発信するため、更に事業内容の充実を図っていききたいと思いを新たにしています。

鬼カフェ

● No.6



七折グループ

和田 キワ子さん・千田 敬子さん・小原 クニ子さん
(写真左より)

福豆鬼節分会の中でも一二を争う人気コーナー「福餅まき・餅のふるまい」を支えてくれている人達があります。それが生活改善を目的として活動している「七折グループ」です。七折グループは、地元農家に嫁いだお母さん達によって構成される団体で、平成7年にメンバーを再編成し、現在の会員は60代から80代の人達が16名。年6回程度のイベントに参加し、自家製味噌や野菜の販売などを行いながら勢力的に活動しています。

節分会には平成9年から参加しており、初めは豚汁や甘酒のふるまいも行っていたそうですが、今は餅を専門に毎回3～4種類の味を作っています。当日は午前9時頃から準備を進め、午後

行われる餅まきやふるまいの時に餅が固くなりすぎないように工夫を凝らすのを欠かしません。こうしてつきあがった餅は、いつまでも柔らかくて美味しいと来場者に評判で、毎年長蛇の列が出来るほど大人気です。

寒い時期の活動ということで、集まるだけでも一苦勞ではないか伺ってみたところ、「歳はとってきたが、みんなで楽しく活動できて励みになっている」と笑顔を見せてくれた御三方。「新しい人達が入ってくれたらいつまでも続けたい」と活動への意欲を語ってくれました。ぜひ新メンバーを加えながらこれからも元気に活動を続けてほしいと思います。



ふるまい餅に長蛇の列

退任のご挨拶

北上市立鬼の館
館長 高橋 博



今年は、春の訪れが早く、間もなく桜の時期となります。

私儀、この度定期人事異動に伴い鬼の館を去ることとなりました。わずか1年という短い間ではありましたが、職員はもとより、地域の方々をはじめ各種団体、関係機関の方々に支えられ何とか務めることができました。心より感謝申し上げます。

館では、多くの人にご来館いただき、たくさんの方の激励をいただきました。平成28年度は、希望郷いわて国体・大会があります。館でも様々な企画を用意してお迎えする予定です。

今後とも、鬼の館にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

平成28年度事業のお知らせ

特別展・企画展

- 4月23日～7月10日 特別展「利根山光人 鬼と民話を描く」
- 7月30日～11月6日 企画展「津々浦々、鬼の国ニッポン」
- 12月10日～3月19日 市民開放事業

鬼っこわんぱく講座

- 5月5日 こどもの日わくわくイベント
- 7月～8月 わんぱく講座
- 1月～2月 鬼剣舞体験

鬼ッス・フレイミュージアム

- 7月～8月 夏休みワークショップ
- 12月～1月 冬休みワークショップ
- 随時 張り子面づくり(鬼剣舞・カッパ)

逢魔が時ナイトミュージアム

8月2日・3日

鬼学講座

11月～12月(全3回)

第22回大乘神楽大会

6月12日

芸能公演

- 4月～10月の第4日曜日の他
- 5月4日・6月5日・8月14日・10月2日
- 11月6日・12月4日・3月26日

福豆鬼節分会

平成29年2月5日(予定)

※イベントに関する日時等、詳しい内容はお問い合わせください。

鬼の里だより

●企画展・特別展

- ＜企画展＞「鬼と大蛇と狐と蜘蛛と～岩手の昔話から」
7月25日～11月3日 7,159人
- ※43号掲載＜特別展＞「VIVA MEXICO」の観覧者数に誤りがありました。(誤)1,792人 → (正)4,649人
- ＜市民開放展＞ I期 881人
II期 4,561人

●鬼の館芸能公演

- 9月27日 口内鬼剣舞 観客 92人
10月4日 二子鬼剣舞 観客 111人
10月25日 御免町鬼剣舞 観客 135人
11月1日 滑田鬼剣舞 観客 73人
12月6日 岩崎鬼剣舞 観客 97人

●鬼っこわんぱく講座

- 鬼剣舞体験 参加者 16人
1月9日・16日・17日・24日・30日・31日

●福豆鬼節分会

- 1月31日 観客 3,000人

●鬼学講座

- 第1回 10月18日 受講者 12人
「子どもと芸能～二子地区の事例」
- 第2回 10月31日 受講者 16人
「鬼剣舞と国際交流」
- 第3回 11月7日 受講者 10人
「県指定無形民俗文化財ひな子剣舞の保存育成」
- 第4回 11月21日 受講者 18人
「神楽を語る～信仰と芸能・保存継承」
- 第5回 12月5日 受講者 10人
「民俗芸能のこれから」

●鬼ZZ・プレイミュージアム

- 9月21日～3月20日
- 和紙面づくり 参加者 88人
出前講座4件 参加者 67人
- ＜冬休みワークショップ＞
- 12月23日鬼剣舞張り子面づくり 参加者 13人
12月26日鬼の館版画カレンダーづくり 参加者 17人
1月6日鬼たこづくり 参加者 29人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時
(入館は午後4時30分まで)

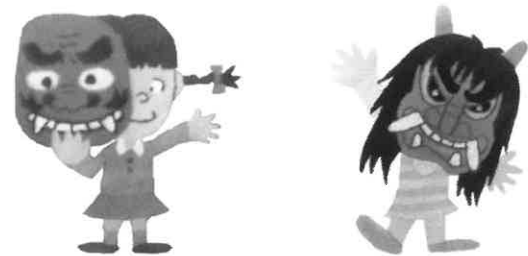
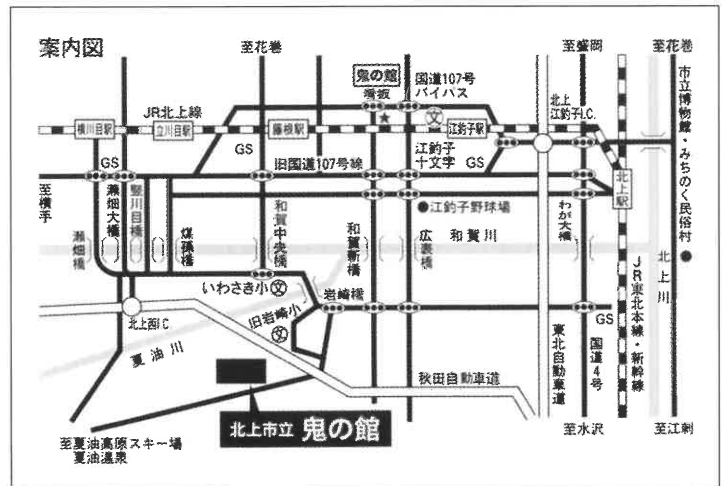
- 休館日**
- ・12月～3月の月曜日
 - ・12月～3月の国民の祝日の翌日
(土・日・月曜日の場合は火曜日)
 - ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 - ・年末年始(12月28日～1月4日)

入館料

一般	500円(400円)
高校生	240円(180円)
小中学生	170円(120円)

()内は20人以上の団体料金

- 交通利用**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分
煤孫経由湯本バスターミナル行「岩崎橋」
下車徒歩10分(平日のみ運行)
 - ・JR北上駅より車で20分
 - ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分



北上市立鬼の館だより

第44号 2016.3.25

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508

学芸ルームのかたすみで・・・

常設展示室の一部展示替えを行い4月から新たに利根山光人画伯の収集した仮面を公開しますが、エントランスホールの張り子のお面作りなどができる「鬼ZZコーナー」や鬼剣舞の映像が見られる「ビデオコーナー」なども配置を変えるべく検討中です。より快適にご利用していただけるよう、担当者が頑張っていますのでご期待ください！(明)